

5. 5 めとる：アンケート抄：Q.〇〇の結婚（式）？

Facebook & twitter 「とある民俗学講師の補足メモ」

- ・婚姻の前近代：「嫁」という資源（生産力&再生産力）の分配、手続きは複雑なほうが良い？
- ・婚姻の近代：婚姻圏の拡大、仲介者の重要性の増大、婚礼の華美化＝商業化（ex. 神前結婚、仏前結婚）
- ・婚姻の現在：ロマンティック・ラブ・イデオロギーの「形式的」持続、「婚活」そして「非婚」の時代へ

【婚姻の決定】私の祖母父は、昭和40年に結婚した。20代なかばの祖父が結婚相手を探していたとき、知り合いの寺の住職さんが檀家であった祖母を紹介した。祖父が田舎の方にある島に住んでいたの、都会育ちの祖母は乗り気ではなかったのですが、祖母の父がその島の出身で、どんどん話を進めてしまい、広島県の生口島に嫁ぐことになりました。

【結納】私の両親は、2002年6月、富山県黒部市で入籍した。入籍に先立ち、母の地元（新潟県柏崎市）で結納を行った。両家の両親と私の父母が参加し、父の実家から、結納金と結納品が贈られた。どちらも農村地域であり、伝統を重視する家が多かったことから、両親の友人たちも、ほとんどが結納をしていたという。ちなみに、富山の人は、鏡餅の飾りとして昆布をつけるなど、めでたい品として昆布を使うの風習があるのだが、結納品の中にも、立派な水引がついた昆布があったらしい。富山の人のにとっては驚くことでもないらしいが、新潟出身の母はすごく驚いたと言っていた。

【茶入れ】祖父は宮崎県美郷町、祖母は同県日南市出身でしたが、名古屋でお見合い結婚したため、正式な式はあげず、結納といくつかの儀式のみを行いました。結納品として特徴的だと感じたのは、茶です。茶入れと呼ばれており、くぎ茶とよばれる番茶を、女性側の両親が男性に結納していたそうです。調べてみると、お茶が長生きの樹であるとか、何度つんでも芽が出てくることから「お芽でたい」とかけた言葉が由来になっているなどがあるそうです。

【嫁入道具】私の両親は2000年10月28日（土）の大安に、大阪府泉佐野市ANAゲートタワーホテルで挙式した。招待客は両家合わせて100名程度。母の両親の「犬猫を他家へやるのでないから、正式な手続きを執ってもらわなければ困る」という意見により、挙式と入籍までに親への挨拶、両家顔合わせ、結納等の儀礼を一通り行ったという。また、当時珍しくなりつつあった仲人も立てた。婚礼家具の搬入は、紅白リボンを巻きつけた嫁入りトラック5台に及んだ。和ダンスには着物や下着に至るまでいっぱい敷き詰め、近所の人を集めて披露したそう。

【花嫁衣裳】1999年に大阪市天王寺区で結婚式を挙げた母から話を聞いた。母の出身の和歌山県岩出市では、近所の人たちに花嫁姿（白無垢姿）を見せる風習があったという。天王寺から岩出市までは車で1時間ほどかかるため、本来なら花嫁姿を披露するのは難しかったのだが、母の祖母（私の曾祖母）が「母の姉のときは式場がとても遠くて花嫁姿をご近所に見せられなかったから、あなただけは風習を守ってほしい」と強く迫ったという。白無垢が嫌だった母は、代わりにウェディングドレス姿を近所の人たちに披露し、その後、親戚一同でバスを貸し切って天王寺まで向かったそう。

【仲人】私の両親は1990年に同じ会社に入社し、そこで出会って結婚した。結婚したのは1994年で、交際期間はおよそ3年。当時はまだ「会社の上司にお願いするのが礼儀」とされていた時代で、両親もそれに倣った（神戸市）。

【披露宴（鹿児島）】父は鹿児島県さつま町出身、母は同県出水市出身。母の故郷である出水市内のホテルで式を挙げた。当時、父の地元では「結婚式は自宅で行い、近所の人々をみな招待する」という風習が残っていたため、「自分だけが招かないのは失礼だ」と考え、バスを借りて近所の人々を出水市の会場まで送迎した。招待客は約200名にのぼったという。

【しゃもじケーキ】2022年、新婦の地元である広島市の大きなホテルで兄の結婚式が行われた。海沿いのチャペルで海をバックに教会式の結婚式が行われた。披露宴では、ケーキ入刀のあと、新郎新婦がしゃもじでケーキを食べさせあつてい

た。新婦へ食べさせるのは普通サイズのしゃもじだが、新婦から新郎へ食べさせるときには顔より大きいサイズだった。

【披露宴（沖縄）】2006年3月、両親の結婚披露宴が沖縄県石垣市のホテルで行われた。母方の祖父が石垣島の出身であり、母の従兄弟が取り仕切ってくれた。新郎新婦の正面にステージがあり、たくさんのおし物がなされた。その最中に母方の祖母の父と兄の三線の演奏があったが、舞台袖で演奏するのが慣習らしく、沖縄出身でない父の親戚が見えるところで弾いてほしいと頼んでも断られたそう。会の最後には全員でカチャーシーをして盛り上がったらしい。

【引き出物】昭和53年3月18日、母方の祖父母の結婚式は、滋賀県東近江市八日市にある松尾神社で式を挙げ、その後、商工会議所へ移動して披露宴を行いました。参加した親族は約70名。引き出物として、掃除機や赤飯などを送りました。料理込みでだいたい1万3000円ぐらいです。

【韓国】私の両親は1995年4月2日、父の実家があった浦項（ポハン）で結婚式をした。父はスーツ、母はドレスを着た、いわゆる西洋式の式であった。韓国の結婚式は「親の結婚式」とも呼ばれ、結婚する人の家族、そしてその家族の知り合いが多く割合を占める。直系の家族から祖父母の知り合い、祖父母の兄弟の子供の妻の兄みたいな、実際には面識のない人も多く集まっていた。新郎は入口で来てくれた客に挨拶をするのが普通であるが、全く知らない人が多くて父は苦労をしたらしい。それでも多くの親戚が集まれる数少ない機会なので、久々に従兄弟に会えて嬉しかったという。

【中国】中国の結婚式では、結婚式当日、新郎が親友たちとともに自分の家から新婦の家へ向かい、新婦を迎えに行きます。一方で、新婦の親族や友人たちは、新郎が簡単に新婦を「連れ出せない」ように、さまざまな「関門」を用意します。これらの関門を通過するため、新郎とその仲間たちが知恵や勇気、そしてチームワークを発揮しなければなりません。たとえば、面白いゲームに挑戦させたり、質問に答えさせたり、歌を歌わせたり、愛の告白をさせたり、さらにはわざと隠された新婦の靴を見つけさせたりすることもあります。

【海外婚】私の両親は新婚旅行でアメリカのロサンゼルスに行くついでに、現地で式を挙げました。ロサンゼルスには母の叔母がアメリカ人の夫と住んでいて、式を手配してくれました。1996年6月26日、The Wayfarers Chapelというロサンゼルスで一番人気の教会で挙式。アメリカ式だからと、サインした誓約書を見せながら話してくれました。母が一番思い出に残っていたのは、something fourという「結婚式で花嫁が身につけると幸せになれるとされる4つのもの」を叔母が用意してくれたこと。1つ目はsomething oldで昔のピアスを身につけ、2つ目はsomething newで花束を持ち、3つ目はsomething borrowedで叔母から借りたドレスを着て、4つ目はsomething blueで青いガーターベルトを身につけました。

【セルフ・プロデュース婚】私の両親は2005年、兵庫県姫路市で豪華な結婚式を挙げた。豪邸を一軒貸し切ってそこに80人ほど招待。地味婚でいいという母の意見を聞かず、父が一番ランクの高い食事やデザートビュッフェを選んだり、外国人シンガーをゲストで呼んだりしたため、費用が500万円を超えてしまい、そこで初めて二人で大喧嘩をしたらしいです。

【フォト婚】叔父と叔母の結婚式について、2003年5月、岡山県倉敷市役所にて婚姻届けを提出後、近くのスタジオにて写真撮影。仕事の繁忙期と重なったため挙式は行わなかった。

【挙式せず】私の両親は、2001年9月9日、市役所で結婚した。当時母は銀座の会社で、父は田町の企業で働き、二人はシステム系の仕事の依頼人とその対応者という関係で出会った。仕事は毎日夜遅くまで続き、二人は仕事が片付いた後に付き合い、その1年後に結婚した。母が挙式などに興味をもたなかったため、結婚式や新婚旅行は行われていない。

【！】両親が結婚するにあたって、両家それぞれに挨拶に行くと思いきや、母の実家には挨拶に行かなかったそうです。母は父が「娘さんをください」と言わなかったことを一生忘れないと少し怒っていました。